

# 九州・沖縄 EBM 勉強会における 研修評価アンケートの分析

水江愛子<sup>1),2)</sup>、平山紀子<sup>1),3)</sup>、阿部佐和子<sup>1),2)</sup>、後藤可奈子<sup>1),3)</sup>、別府さおり<sup>1),4)</sup>、  
佐藤正恵<sup>5)</sup>、橋本郷史<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup>九州・沖縄 EBM 勉強会、<sup>2)</sup>福岡大学図書館医学部分館、<sup>3)</sup>久留米大学医学図書館、  
<sup>4)</sup>福岡徳洲会病院図書室、<sup>5)</sup>千葉県済生会習志野病院図書室、  
<sup>6)</sup>東邦大学医学メディアセンター

## 1. 背景

九州・沖縄 EBM 勉強会(以下、当会)は、2019年に福岡県で開催された第36回医学情報サービス研究大会の交流をきっかけに結成した(立ち上げの経緯については第5回JMLA学術集会において発表)。当会は、医学図書館を含むヘルスサイエンス系図書館に係わる人材の育成を目的に研修会を開催している。第1回研修会より受講後にアンケートを実施し、研修内容と成果を把握するために分析を行なった。なお、研修会はすべてオンラインで行われ、九州・沖縄地区に限らず全国から参加があった。

## 2. 方法

第1回から第3回の研修会(2021年1月～2022年2月開催)終了後、各回受講者にJMLA-CEコースのポイント付与条件となる「事後アンケート」を行った。その中で、研修成果の分析を行うための追加のアンケートについて同意を得た受講者に対し「研修評価アンケート」のフォームを送信し、回答を依頼した。研修評価アンケートでは、図書館勤務年数や研修会の満足度などに加えて、ルーブリック評価表を用いて研修内容に関する知識・スキルの自己評価について質問を行った。ルーブリック評価表の項目は、知識・スキルを4つの観点に分け、それぞれに5段階リッカート尺度で習熟度を設定した。また、自己評価は受講前後それぞれの状態について回答してもらった。各観点の習熟度を0-4で点数化し、すべての点数を合算したもの(最小0点、最大16点)を各受講者のスコアとして利用することで、単に割合の比較にとどまらない細かな成果の分析を行った。

## 3. 結果と考察

第1回から第3回の受講者は計170名で、事後アンケートの回収率は97%、研修評価アンケートの回収率は50%だった。同一受講者が各回の研修会に参加した可能性はあるが、個人情報収集していないため、すべての回答をユニークなものとして扱った。研修評価アンケートについて、各回のアンケート内容は共通で、回答の傾向も基本的に同じだったため、3回の回答をあわせたデータで分析を行った。

分析結果および考察について、詳細は研究大会のポスター発表にて報告する。